

都ライト'16

活動場所：上京区 活動開始：平成17年1月～

都ライト実行委員会



大黒町町内会
翔鸞小学校
ANEWAL Gallery
堀川通りと堀川を美しくする会

■ 地域が抱えていた課題

かつて、日本の商人・職人は「町家」と呼ばれる細長い木造の家を職場とし、住居としてきた。上京区西陣は京都市内で町家の数多く残る貴重な地域であった。しかし近年、地域の産業である西陣織の衰退や人口減少、住民の高齢化、また、建築基準法の改正などにより、町家が減少し、まちの景観が失われつつある。

■ 取組（連携）のきっかけ

町家やまちの魅力を発信し、多くの人にその存在を知ってもらい、ゆくゆくは保全につなげたい。その思いから、平成17年、「楽町楽家」の呼びかけにより、そのイベントの1つとして「都ライト」を開催。平成18年にはライトアップイベントとして独立し、以降、開催地域を拡大しつつ、平成24年には、ほぼ現在の形が定着した。

■ 具体的な連携の取組

京都の様々な大学に通う学生が中心となり、上京区内の「ANEWAL Gallery」を拠点に活動し、主に、地域と協働でライトアップイベントを開催している。町家の内から外の通りに向けてライトを照らすことで、「暮らしの灯り」を表現する。当日はライトアップに加え、地域の特色を活かした併設イベントも開催し、平成28年は開催地周辺の「お食事処MAP」も復活した。また、より地域に密着したイベントとすることを目標とし、地域の方との定期報告会を設け、「西陣マルシェ」の他、地域行事にも積極的に参加してきた。これらの経験を活かし、平成27年度からは「京の七夕」のライトアップも一部担当している。

■ 今後の活動

毎年11月にライトアップイベントを開催。今後の課題としては、現在は開催地域が浄福寺通大黒町～上七軒通まで1本の「線」として結ばれているが、それを地域全体に「面」として広げていくことが挙げられる。

■ 成果

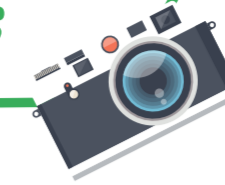
①大学・学生の視点

平成24年度頃から団体として引き継ぎの体制が改善されつつあり、近年では安定して30名程度の学生が実行委員として活動するようになった。これによって地域からの信頼が生まれ、運営が円滑に進むようになり、都ライトが学生自身の学びや表現の場として、貴重な機会となっている。また、様々な大学から集まったメンバーとともに活動し、地域住民や他団体、社会人と接し多様な価値観に触れることで、普通に大学に通っているだけでは得られない経験を積めた。

②地域の視点

平成27年度は、3日間で、延べ1500人がイベントに来場し、地域に人を呼び込むことに成功した。また地域の翔鸞小学校との連携を強化したことにより、家族連れで来場する姿が見受けられ、若い世代に町家やまちの魅力を知ってもらうことができた。定期的に学生が地域に参入することで、地域が活気づいた。

活動写真



大黒町通 織成館にて ライトアップ



翔鸞公園にて チンチン電車の模型



ANEWAL Galleryにて 集合写真



ANEWAL Gallery ミーティングの様子



地域のお宅へ照明願いをしている様子



大黒町南受付にて 実行委員と当日スタッフ

